

国営農地開発事業「御浜地区」のフォローアップ調査がもたらす効果

株式会社ユニオン ○木野村 遼
吉村 伸一

1. はじめに

国営農地開発事業「御浜地区」は、事業が完了して約30年を経過している。本調査は、今後の農業の展開方向を検討するため、令和元年度から2ヶ年にわたり実施した。初年度は、地区全体の農業と施設管理状況を調査し、2年目に各団地における地元意向を把握し、それを反映した施設の再整備構想を検討した。初年度の調査では、営農形態の変化に対応した農業用水利施設の再整備と、気象条件・流域特性の変化に対応した排水施設の再整備が課題として抽出された。こうした課題は、団地ごとに特徴が異なる傾向も把握された。

本稿では、2年目に実施した地元意向を反映した施設の再整備構想の検討経緯と、2ヶ年にわたり実施したフォローアップ調査で当該地域にもたらされた効果について報告する。

2. 地区の概要

本地区は、昭和50年度から平成3年に国営農地開発事業により、三重県南牟婁郡御浜町及び紀宝町に造成された17カ所の柑橘生産団地で、総面積は約330haである。主要作物は、温州みかん、甘夏、不知火などであるが、地区の大部分を占める御浜町では、「年中みかんのとれるまち」をキャッチフレーズに、年間を通じて多種多様な柑橘類の栽培が行われている。柑橘類以外にも、ブランド化された南高梅の生産が作付面積の約2割を占める。農業用水利施設は、国営事業で整備された防除用水と、その後県営事業等で整備された畑地かんがい施設がある。これらは、主に団地内の沈砂池を水源とし、ポンプでファームポンドへ揚水し自然圧で受益地に配水している。



写真-1. 地区内の優良農地
(阿田和団地)

3. フォローアップ調査の内容と得られた効果

(1) フォローアップ調査の内容

1) 地元意向調査 I (アンケート調査～第1回意見交換会)

2年目の地元意向調査では、団地別に異なる課題を整理し、施設の機能診断調査に反映した。団地別の再整備構想を立案するため、団地組合員全員を対象としたアンケート調査と団地代表者への聞き取り調査を実施した。その結果、営農者の高齢化が進んでおり、次世代の担い手に繋げるための農地・施設の維持を望む意見や、現状においてかんがい用水の需要に応じた水源の確保を望む意見等が多く出された。

2) 施設機能診断調査

問診、現地調査では、第1回意見交換会で聞き取った課題を踏まえ、詳細な現状の把握が必要な施設について施設機能診断調査を実施した。調査の結果、揚水機場の機能低下、ファームポンドの容量不足、パイプラインの老朽化による漏水事故の多発と施設容量の不足が確認された。排水施設では、気象変化による時間降水量の増大とマルチ栽培の増加による流出率の増大で水兼道路と排水路の流下能力の不足が見られた。

3) 再整備構想の検討

地元意向調査と施設機能診断調査の結果を基に、地区内で共通する次の4つの課題を抽出した。「水需要の変化に対応する課題」、「施設の老朽化に対する課題」、「気象及び流域変化に対応する課題」、「高品質・安定生産のための生産

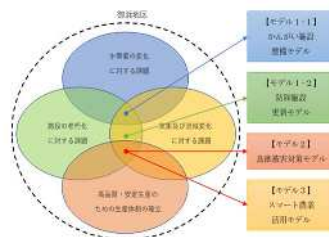


図-1. 施設整備モデル図

体制確立の課題」を抽出した(図-1)。これらの課題の重要度は各団地で異なっていたため、その組み合わせから4つの整備構想モデルに分類し、各団地の特徴に応じてグループ分けした団地別の再整備構想(案)を作成した。

再整備構想(案)は、各団地の整備構想を示したイメージ図と整備概要表を作成した。イメージ図は、団地の営農状況や施設の位置関係を視認しやすいよう、地形図や航空写真を基図とし、対象施設の位置と対策が必要な箇所を表示した(図-2)。整備概要表は、各施設の対策方針の概要と、対策に要する概算工事費、整備時期を整理し、施設整備の優先度を可視化した。



図-2. 再整備構想(案)イメージ図
(葉広山団地)

4) 地元意向調査Ⅱ(関係機関調整会議～第2回意見交換会)

再整備構想(案)は、関係機関(県、町、土地改良区)と調整会議を行い、今後の事業実施等を想定した意見交換を行い、それに必要な調整事項等を確認した。最終的な再整備構想(案)は、団地別に代表者に説明を行い、第1回意見交換で聞き取りした地元意向が反映された構想となっているか確認いただいた。最後に、第2回意見交換会を団地代表者と関係機関の参集のもとに開催し、2ヶ年にわたるフォローアップ調査の振り返りと、本地区の営農の展開方向や団地別の再整備の進め方等に関する意見交換を行い、情報や意識の共有を図ることができた。

(2) フォローアップ調査で得られた効果

2ヶ年にわたるフォローアップ調査は、地区の農業状況や施設管理状況、地元意向等を把握し、今後の農業の展開方向を検討することが目的であったが、農家と調査を行った技術者及び行政機関が意見交換を行う中で、以下の効果もたらされた。

1) 事業の構想を想定した地元要望の聴取

本業務の地元意向調査により、各団地が抱える課題や要望を把握・整理することができ、今後中山間地域総合整備事業による再整備の事業化に向けた要望聴取をすることもできた。

2) 事業実施に向けた基礎資料の提供

地元意向を反映した再整備構想は、施設の再整備の事業化を進めるに当たっての御浜町から三重県への要望をまとめた資料として活用され、円滑な事業実施に向けた基礎資料を提供できた。また、この資料について事業化に関わる関係者から、「こまめな要望の聞き取りとその内容を反映した施設整備構想」として評価を受けた。

3) スマート農業の展開に関わる農家ニーズの把握

スマート農業を地区内に展開する前段で、スマート農業に対する農家ニーズの把握ができ、御浜町が今年度以降に計画する関連事業への足掛かりをつくることができた。



写真-2. 第2回意見交換会の状況

4. おわりに

この完了地区フォローアップ調査を通じ、御浜地区における課題を関係者間で共有し、今後の新たな農業の展開方向について意見交換することで、地区の連帯感を醸成することができた。また、御浜町役場を中心としたスマート農業等の産官学が連携した新たな取り組みの動きも見られ、今回の調査をきっかけに地域が活性化されることが期待される。

謝辞

本調査の実施に当たり、御浜地区営農者の皆様、木曾川水系土地改良調査管理事務所、三重県熊野農林事務所、御浜町役場、紀宝町役場、御浜土地改良区のご担当各位に快くご協力とご指導を頂戴したことに感謝申し上げます。